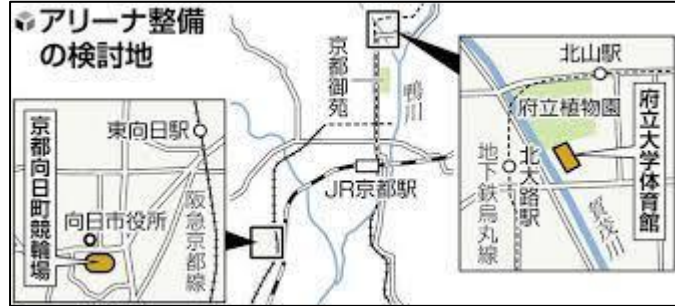


NMO OfficeLetter

府のアリーナは向日町競輪場に

北山か向日市かと揉めた京都府のアリーナ候補地が、どうやら向日町競輪場内に建設することが決まったようだ。西脇知事が正式に発表し、永年の課題に結論が出た。当初北山地区に建設するという構想が有力だったが、景観を壊すという周辺住民の反対があり、その後候補地として出てきた向日町競輪場内



に新設するという案で決着した。門脇前市長がアリーナを市内にという希望は、市長の交代もあり、結局実現しないまま、幻の案となった。

＜解説＞京都市内に大規模な体育館（アリーナ）がないことは以前から課題となっていた。現在、体育館は西京極に京都市の体育館があり、大將軍に京都府の体育館があるが、どちらも小規模で海外からの著名スポーツチームを招致して大規模なイベントを行うだけの1万人規模の施設が

ない。以前から、府立大学のある北山地区に府立大学の体育館の建て替えに併せてアリーナを建設する構想があったが、風光明媚な北山地区に相応しくないと周辺住民や府立大関係者からの反対が強く、頓挫していた。向日町競輪場も1950年に建設された施設の老朽化が激しく、存続問題が俎上に上っていたが、コロナの巣ごもり傾向があり2022年に存続が決定し、向日市市長がアリーナとの併設案を京都府に申し入れ、事実上向日市案で決着した。バスケットのBリーグも大規模なアリーナが必要となり、音楽イベントの開催とも併せて1万人収容のアリーナの建設は待たれていた。今回、事実上向日町競輪場を縮小する案にセットで遊休の場所が生まれることで、向日町競輪場内に新設する案で決着した。ただ、課題は多く、特に周辺道路の整備や駐車場の確保など、問題は山積している。北山案が廃案になったことで、逆に府立大学の体育館の建て替えも待ったなしの課題になった。Bリーグの

アリーナをめぐる議論

	賛成意見	反対意見
府立大体育館跡	<ul style="list-style-type: none"> ・北山エリアは交通至便地で、人が集まりやすい ・全国大会や国際大会の誘致ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学施設としての体育館改修が優先されるべきだ ・府立植物園やお墓が近く、景観や騒音問題が不安
向日町競輪場	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい施設を受け入れる余地がある ・競輪場も整備することで、年間を通じてにぎわいを創出できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通渋滞を引き起こすなど交通環境に課題がある ・住民の生活環境が悪化する可能性がある



条件を満たす時期も関連して、あまり時間は残されていない。サッカー場の亀岡駅北側地区での新設の際にも、相当の時間がかかり課題もその後多く発生した。アリーナ構想がこのまますすんで進むという保証はないが、いったん決まったからには関係者の努力が問われる事態になった。1万人以上収容の念願の施設ができることは喜ばしいが、周辺住民の反対や環境破壊があってはならない。北山の再開発計画もどうなるのか、今後の展開が注目される。競輪場周辺の交通問題も、周辺の住民への丁寧な説明が求められるだろう。開発と生活の両立を図るという行政の基本が試される。